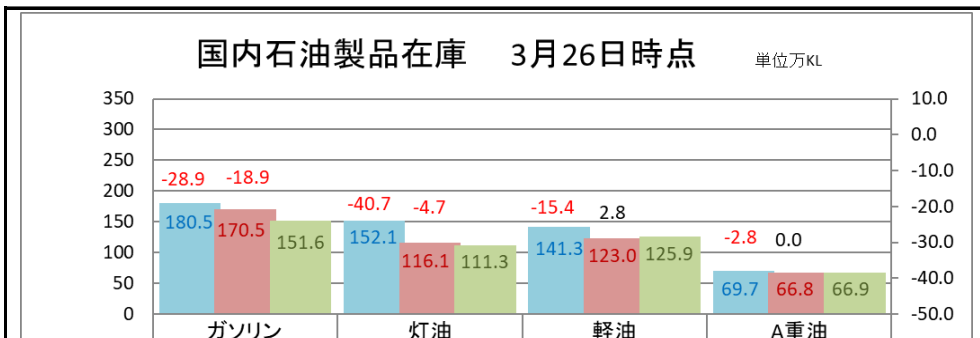
イデックスオイルレポート　~For a week~

2022/4/1作成　(株)新出光

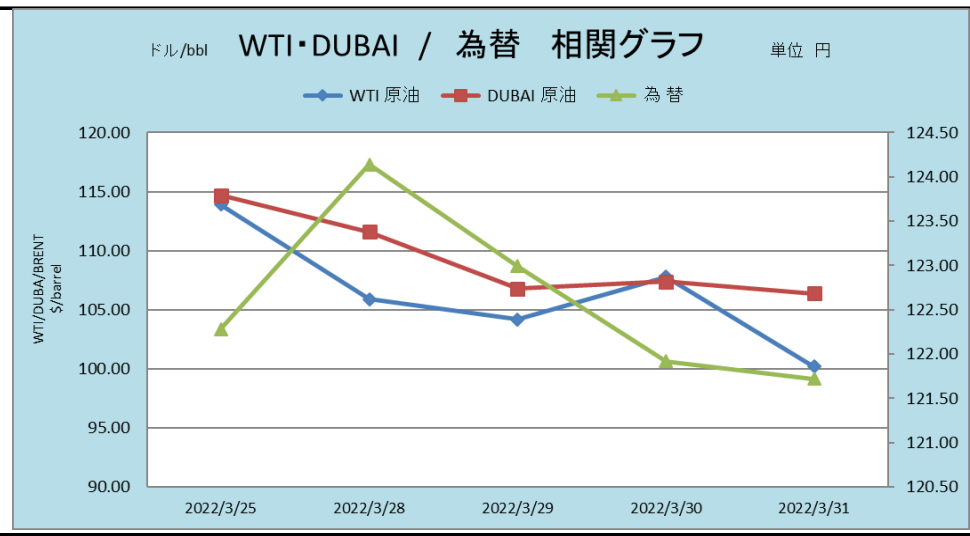
【概況】＜ロシアに対する追加制裁　＞

●25日、米メディアによるとイエメンの親イラン武装組織フーシ派が、サウジアラムコの石油関連施設をドローンを使って攻撃したと発表。20日にも同様の攻撃を受けているとの事で、市場では再び供給懸念が広がり相場が113.9ドル迄上昇しました。
●28日、中国最大の経済都市上海で、新型コロナウィルスの感染拡大に伴い28日～4月1日まで市の東半分にロックダウン(都市封鎖)が導入され、4月1日から4日間は西半分で実施されるとの事で、経済活動の停滞によりエネルギー需要が減ると見方から原油先物は売りに転じ相場は105.9ドルへ下落しました。
●29日、ロシアによるウクライナ侵攻に対する停戦交渉がトルコのイスタンブールで再開されました。市場では、停戦が実現すれば対ロ制裁が緩和されエネルギー供給懸念が後退するとの期待感が台頭し売りが活発化し、一時100ドルを割り込みました。しかしカザフスタンのエネルギー省が、カスピアン・パイプライン・コンソーシアム(CPC)の港湾施設が悪天候で損傷した影響で、国内の1カ月の原油生産は少なくとも2割減少するとの見解を示したことによりWTI原油は買われ104.2ドルとなりました。
●30日、ロシア×ウクライナ停戦交渉が昨日再開されましたが、その後も攻撃が続いているため、欧米はロシアの軍産複合体などを標的にした追加経済制裁を検討しています。停戦期待が後退し相場は買いが優勢となりWTI原油は、107.82ドルまで上昇しました。
●31日、米ホワイトハウスは、過去最大の米戦略石油備蓄(SPR)から日量100万バレルを今後6カ月間放出すると公表しました。総量は過去最大の1億8000万バレル規模で、ロシアのウクライナ侵攻に伴うエネルギー価格の高騰対策で、原油高に歯止めをかける狙いです。これを受けてWTI原油は、100.28ドルまで下落しました。

4月1日	17:00現在	WTI原油	99.50ドル	為替　1ドル	123.20円



	ガソリン	灯油	軽油	A重油
前年	180.5	152.1	141.3	69.7
先週	170.5	116.1	123.0	66.8
今週	151.6	111.3	125.9	66.9
前年比	-28.9	-40.7	-15.4	-2.8
前週比	-18.9	-4.7	2.8	0.0



	次回元売変動予測 4/7～	元売変動予測
ガソリン	→	−0.5～−1.5
灯油	→	−0.5～−1.5
軽油	→	−0.5～−1.5
A重油	→	−0.5～−1.5
LSA	→	−0.5～−1.5

※原油コスト「−4.5～−5.5円」
激変緩和補助金「−21.1円」
※現時点での予測です。

【製品卸価格】＜月間玉販売開始＞

≪今週≫今週の元売り仕切り改定は3社ともに原油コスト「+9.0円(サウジ調整金+0.5円含む)」、補助金「−25.0円」となり、実質「+2.6円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの28日時点の小売価格平均は174.0円となっております。今週は、23日以降販売枠を消化した業者が徐々に出始め、市場から撤退した業者が増える毎に安値玉が払拭され市況は、少しずつ上昇しました。
≪4月2日以降≫次回の元売り改定は、原油コスト「−4.5円～−5.5円」の値下げ改定予測で、激変緩和補助金は「−21.1円」の見込みで、都合「−0.5円～−1.5円」の値下げ改定の予測となっています。月初は、リセット値上げもあり各社様子見のため高値提示していましたが、上海のロックダウンや戦略石油備蓄放出のニュースで先の値上がりは、回避されたと見た業者が少しずつ売りに出ています。しかしまだ今月の月間コストが固まったわけではないので市況連動玉を持つ業者は、無理をせず少しずつ枠を消化しています。販売の主体は、コストの判明している週間玉を持つ業者を中心に進んでいくものと思われます。先の地震の影響で仙台と千葉でトッパーが停止しており、また四国の製油所の大規模定修も予定されており今後の玉繰りはタイトになる可能性を含んでいます。

【次世代エネルギー】＜ユーグレナと商船三井、バイオディーゼル実証試験＞

商船三井とユーグレナは、茨城県大洗港において、商船三井フェリーが保有・運航するフェリー「さんふらわあ しれとこ」で、ユーグレナが販売する次世代バイオディーゼルを使用した実証実験航海を実施しました。ユーグレナ社のバイオ燃料は、植物や動物などの地上にある生物資源を原料とし製造された燃料です。生物資源は、成長過程や生態系の中で光合成により大気中の二酸化炭素をあらかじめ吸収しているため、バイオ燃料を燃やした時に排出される二酸化炭素は、相殺されあらかじめ大気中から取り込んだものを元に戻すという考え方です。。今回使用したバイオディーゼル燃料は、船舶のディーゼルエンジンに対して内燃機関を変更せずに使用することが可能です。今後も実証試験を重ね安定供給及び低コストが実現されることが期待されます。

[出典]　① https://news.mynavi.jp/techplus/article/20220330-2307024/

© 2022 SHIN-IDEMITSU Co.,Ltd.ALL rights reserved.